

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 スワーブ・エフェックス	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.470	△RG 0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：スワーブ・エフェックス

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

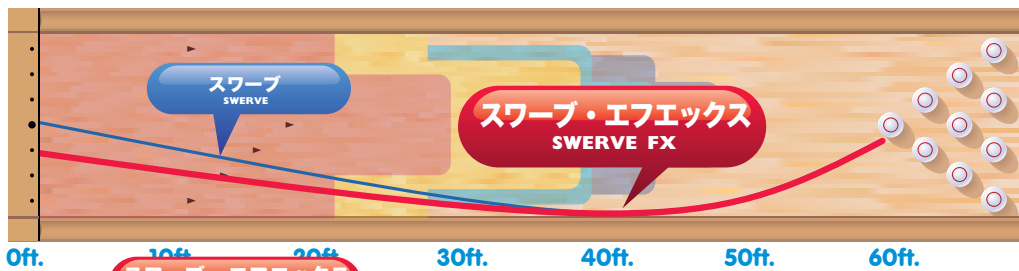
比較対照ボール：スワーブ

フレアーの幅 インチ

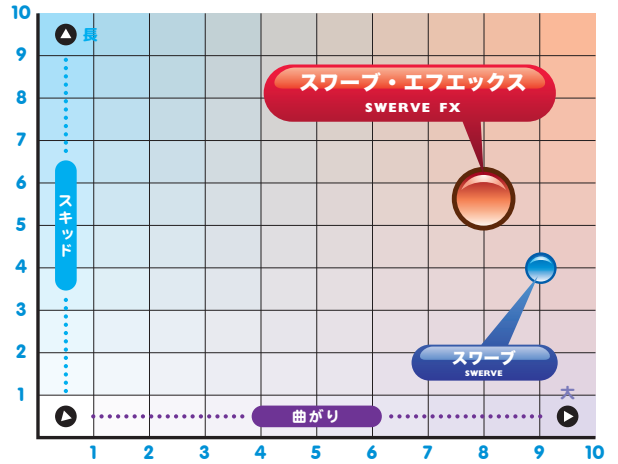
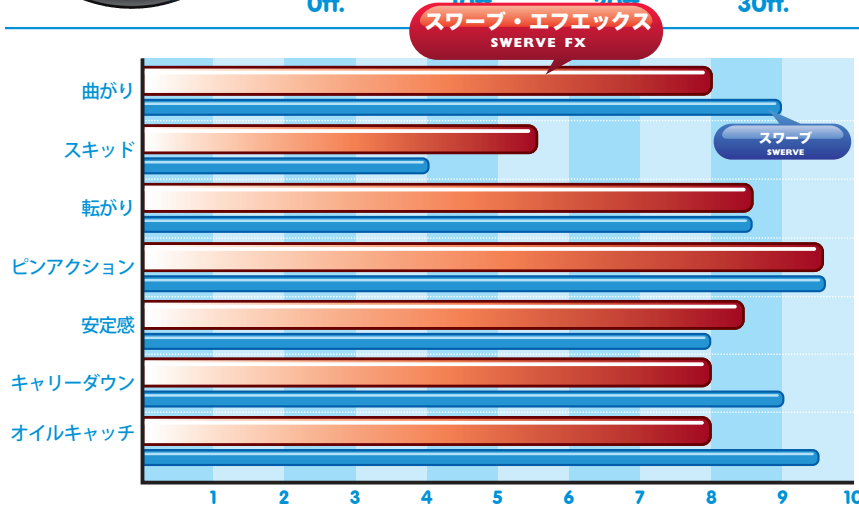
PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

今年の9月中旬に発表されたColumbia社最新テクノロジーの”HYPER SHOCK TECHNOLOGY”は、ピンに当たった時にボールのパワーが保たれるようにインナーシェルに粘弾性の添加物を加え、衝撃をコントロールしてボールの動きを維持します。SWERVEに搭載されたこのテクノロジーは重厚感とピンを低くとばし、特に薄めのピンアクションで絶大な効力を発揮しました。今回発売するSWERVE FXは、対応コンディションをミディアムで最高のリアクションが取れるよう、カバーストックをREFLEXからREFLEX PEARLカバーストックに変えることで全体的に感じた摩擦をMidからバックエンドへの摩擦に変換させています。SWERVEと投げ比べてみると明らかに使用領域の差を感じます。より手前のオイルを必要とする初代SWERVEに対し、SWERVE FXは手前の走りの良さを感じます。ですがMidで噛み過ぎず流れ過ぎず絶妙なキャッチ感がこのFXにはあり、フリップ状のリアクションと予想しやすい曲がり兼ね備えた性能だと読み取りました。そしてHYPER SHOCK TECHNOLOGYが活きますので、フランチャイズのコンディションや幅広い領域で安定したパフォーマンスを発揮させたい場合には、このFXの方がイメージを変えずに対応できるのではないかと思います。またSWERVEに使用されているSWERVEコアはマスバイアス(非対称コア)ですが、Intdiffが0.007と小さいためマスバイアスをあまり気にしないでレイアウトしていただけるのも特筆すべき点です。普通のコアよりもMidで強い動きができますが、対称コアのような動きがこのコアの特徴です。

特記事項

SWERVEのパフォーマンス領域をミディアムを中心に置き換え、フランチャイズのコンディションや幅広いコンディションへの対応を目指したモデル。ミディアム用でHYPER SHOCK TECHNOLOGYは贅沢なつくりです。